

て、ほとんどへあてがひ、四方より土をさらりと入土一盃になりたる時、前後左右へ暫く動べし、土の空虚のなきためなり、植て一兩日多水をそぎ、或は大雨に逢事を忌、土のかたまるを恐るなり、肥を嫌草木は、年々土をあらたに入替てよし、又肥を好物は、土の乾めなる時、先土を箸の様なる物にて和げ置、よくねりたる肥を根廻りへそぐべし、又鉢植を地に置て、久く居つく時は、水抜の穴より、蚯蚓升りて、鉢の内につきむときは、必濕てついに根腐する事あり、節々置所を替てよし、其蚯蚓を去る法は、後に見ゆ、又蘇鐵、松の類は、棚にのせ置ても、ま、蟻の付事あり、早く土を取替てよし。

〔草木育種後編上〕盆栽之事

考盤餘事云、盆景以几案可置者爲佳、其次則列之庭榭中物也、花鏡曰、至若城市狹隘之所、安能比戶皆園、高人韻士、惟多種盆花、小景、庶幾免俗、然而盆中之保護灌溉、更難於園圃、花木燥濕冷煖、更煩於喬林、喜任部阿按に、盆中は實に土力薄くして、養ひ難し、殊に千山萬野の奇艸異木を盆栽にし、一架に置て愛玩する故に、肥水時を得、乾濕其性に從はざれば、立所に枯槁に至るべし、灌園先生云、盆はすやきを上とす、土燥く故に根腐朽事なし、盆は土の上に置時は、上半分は乾けども、半は濕りあり、外氣を内へ透す故なり、但夏月は度々水を澆ぐべし、冬は鉢のま、土中へ埋め、春に至り掘出してよし、鉢は粗き土にて焼たるもの、内外氣通ず、さる故に樹木自ら瘠るものなり、又盆の形によりて燥濕あり、上濶く下狭く、淺きは陽氣を含むゆるに植物によし、上下同して深きは陰氣を含むゆるに濕易く、植物腐る、上狭く下廣きは濕り強く、又抜く事なりがたくして甚惡し、都て鉢へ植たるは、當ふんは雨を厭ふべし、植て直に雨にあたれば、土かたまりて根くさるなり、又盆栽は置場所肝要なり、たとへば南方の暖國より來る物は、南風をうけて、亢陽の處に置てよし、又南方にても陰地にあるものは、暖處の内にて日をよけたるがよし、喜任曰、寒地より來るもの